

12月進路だよい

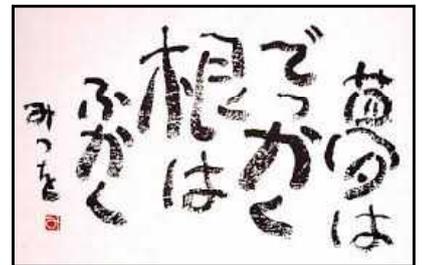


Vol.50 2021.12.24

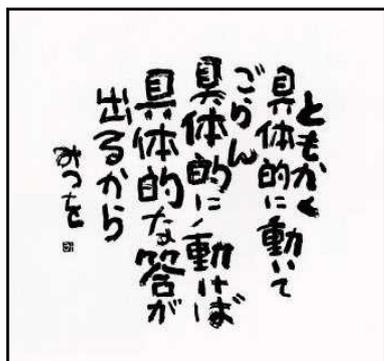
いよいよ勝負の冬休み！

今から約4ヶ月前。夏休み明けにまだまだ暑さが厳しい中で始まった二学期も、ついに今日の終業式で終了ということになりました。一年の中で一番長い“二学期”の最終日の今日、みなさんはどのように感じたのでしょうか？自分の努力を胸を張って言える人が多くいてくれると嬉しく思いますが、中には少し後悔や焦り・不安を感じている人もいるかもしれませんね。

中学生の君たちは、いままさに大地にしっかりと根を張る時期。これから君たちは太く高く成長していくであろう幹を支えていけるだけの土台、根っこ、を作る時期のように思えます。生物のにとって『骨』はとても大切な重要なもの。植物にとっての根も同じです。どちらにも共通して言えること。それは、大切なものは案外目には見えないのかもしれないということ。努力を「結果」という形で確認できたら、続ける意欲は継続しやすいかもしれません。しかしながら、目指しているものが大きく高くあるときは、なおさらすぐには結果が表れないことが多いものです。種をまいてから収穫まで時間がかかるのと同じなのかもしれません。結果がでないときでも、こつこつと、コツコツと、ただひたすらに努力を続けるということ。「勉強する」ということは誰にでもできます。でも「勉強し続ける」ということはとても難しいこと。みなさんの「今」の頑張りが「結果」として表れる日を楽しみに、今日も見守っていきたいと思います。あの真夏の暑さを力に変えて、目には見えない骨を、根を強くたくましく成長させてみませんか！？



2学期開始から早4か月。夏から秋、そして冬へと季節は巡ってきました。この4ヶ月間みなさんどのように過ごしてきたのでしょうか。中学生の君たちは、今まさに大地にしっかりと根を張る時期だと思えます。じっくりと時間をかけて大地を耕し、深く深く大地へ根を張るのが、いまこの時期だと思えます。これから先続く人生で、太く高く成長していくであろう幹を支えていけるだけの土台や根っこを作る時期なのです。三年生のみなさん、残された時間はそう多くはありません！！過ぎ去った日々は戻りませんが、今日この瞬間からは、まだまだなんとでも変えることができます。不安になるより、焦るより、後悔するよりも、まずは具体的に行動にうつしてみましょ。



今日の午後からはいよいよ冬休みです。三年生のみんなにとっては、**入試前にまとまった時間のとれる最後のチャンス**となります。その一方で、クリスマスにお正月と、生活リズムが崩れやすく誘惑の多い時期でもありますね。どうか、自分自身の弱い心に負けないで、降り注ぐ誘惑に負けないで、一日一日、一時間一時間を大切に過ごしてください。ただ暖かいだけでは桜の花は咲かないようです。冬の寒さを超えないと桜は開花しないそうです。満開に咲き誇る桜の花を思い描きながら、「焦らず」「慌てず」「諦めず」にこの冬休みを充実させてください。あなたの桜を咲かせることができるのはあなた自身だけなのです！

サンタクロースってほんとにいるの？

1897年9月、ニューヨークに住む8歳の少女ヴァージニア・オハンロンは小学校で「サンタクロースはいるのか」について同級生と口論になりました。彼女はサンタクロースはいると主張しましたが、同級生はいないと主張していました。サンタクロースは実在するか家に戻って質問したところ、医師をしていた父、フィリップ・フランシス・オハンロンは『ザ・サン』に投書するよう提案したため、彼女は「サンタクロースはいるのか、教えて欲しい」という次のような手紙を送りました。

<p>"DEAR EDITOR: I am 8 years old. "Some of my little friends say there is no Santa Claus. "Papa says, 'If you see it in THE SUN it's so.' "Please tell me the truth; is there a Santa Claus? "VIRGINIA O'HANLON. "115 WEST NINETY-FIFTH STREET."</p>	<p>編集者さんへ。わたしは8歳の女の子です。 私の友達がサンタクロースはいないというのです。 パパは、もしわからないことがあったら、サン新聞といえます。 本当のことを教えてください。サンタクロースはいるのですか？ ヴァージニア・オハンロン 95番通り西115</p>
---	--

当時、この手紙を受け取った**ニューヨーク・ザ・サン**の論説委員であった**フランシス・チャーチ**が掲載した社説です。

<p>VIRGINIA, your little friends are wrong. They have been affected by the skepticism of a skeptical age. They do not believe except [what] they see. They think that nothing can be which is not comprehensible by their little minds. All minds, Virginia, whether they be men's or children's, are little. In this great universe of ours man is a mere insect, an ant, in his intellect, as compared with the boundless world about him, as measured by the intelligence capable of grasping the whole of truth and knowledge.</p> <p>Yes, VIRGINIA, there is a Santa Claus. He exists as certainly as love and generosity and devotion exist, and you know that they abound and give to your life its highest beauty and joy. Alas! how dreary would be the world if there were no Santa Claus. It would be as dreary as if there were no VIRGINIAS. There would be no childlike faith then, no poetry, no romance to make tolerable this existence. We should have no enjoyment, except in sense and sight. The eternal light with which childhood fills the world would be extinguished.</p> <p>Not believe in Santa Claus! You might as well not believe in fairies! You might get your papa to hire men to watch in all the chimneys on Christmas Eve to catch Santa Claus, but even if they did not see Santa Claus coming down, what would that prove? Nobody sees Santa Claus, but that is no sign that there is no Santa Claus. The most real things in the world are those that neither children nor men can see. Did you ever see fairies dancing on the lawn? Of course not, but that's no proof that they are not there. Nobody can conceive or imagine all the wonders there are unseen and unseeable in the world.</p> <p>You may tear apart the baby's rattle and see what makes the noise inside, but there is a veil covering the unseen world which not the strongest man, nor even the united strength of all the strongest men that ever lived, could tear apart. Only faith, fancy, poetry, love, romance, can push aside that curtain and view and picture the supernal beauty and glory beyond. Is it all real? Ah, VIRGINIA, in all this world there is nothing else real and abiding.</p> <p>No Santa Claus! Thank God! he lives, and he lives forever. A thousand years from now, Virginia, nay, ten times ten thousand years from now, he will continue to make glad the heart of childhood.</p>	<p>ヴァージニア、それは友だちの方がまちがっているよ。きっと、何でも疑いたがる年ごろで、見たことがないと、信じられないんだね。自分のわかることだけが、全部だと思ってるんだろう。でもね、</p> <p>ヴァージニア、大人でも子どもでも、全部がわかるわけじゃない。この広い宇宙では、人間って小さな小さなものなんだ。ぼくたちには、この世界のほんの少しのことしかわからないし、本当のことを全部わかろうとするには、まだまだなんだ。</p> <p>実はね、ヴァージニア、サンタクロースはいるんだ。愛とか思いやりとかいたわりとかがちやんとあるように、サンタクロースもちゃんというし、愛もサンタクロースも、ぼくらに輝きをあたえてくれる。もしサンタクロースがいなかったら、ものすごくさみしい世の中になってしまう。ヴァージニアみたいな子がこの世になくなるくらい、ものすごくさみしいことなんだ。サンタクロースがいなかったら、無邪気な子どもの心も、詩の楽しむ心も、人を好きって思う心も、全部なくなってしまう。みんな、何を見たっておもしろくなくなるだろうし、世界を楽しくしてくれる子どもたちの笑顔も消えてなくなってしまうだろう。</p> <p>サンタクロースを信じないんだったら、妖精もいないっていうんだらうね。だったら、パパにたのんで、クリスマスイブの日、煙突という煙突全部に、人を見張らせて、サンタクロースが来るかどうか確かめてごらん。サンタクロースが来なかったとしても、何にもかわらない。だってサンタクロースは見た人なんていないし、サンタクロースがいなくていう証拠もないんだから。大事なことは、だれも見た人がいないってこと。妖精が原っぱで遊んでいるところ、だれか見た人っているかな？ もちろんいないよね、でも、いないって証拠もない。世界でだれも見ることがない、見るができない不思議なことって、本当のところは、だれにもわからないんだ。</p> <p>あのガラガラっておもちゃ、中をあければ、玉が音をならしてることがわかるよね。でも、不思議な世界には、どんな強い人でも、どんな強い人が束になってかかっても、こじあけることのできないカーテンみたいなものがあるんだ。無邪気な心とか、詩を楽しむ心、愛とか、人を好きになる心だけが、そのカーテンをあけることができ、ものすごくきれいでかっこいい世界を見たり、描いたりすることができるんだ。うそじゃないかって？ ヴァージニア、これだけは言える、いつでも、どこでも、ほんとうのことだって。</p> <p>サンタクロースはいないって？ サンタクロースはいる、そして永遠にいる。これから1000年後だって。ヴァージニア、何千年、いやあと十万年たっても、サンタクロースはずっと、子どもたちの心を、わくわくさせてくれると思うよ。</p>
--	---

¡Feliz Navida y Feliz Año Nuevo!